

赤井川村地域公共交通計画（たたき台）

■地域及び公共交通の現状と課題

	現状	問題点	課題
人口	・生産年齢人口の減少に加え、少子高齢化の進行 ・第一次産業の構成比が約3割と他地域と比べ高い傾向	・生産年齢人口の減少や農繁期等による家族送迎が困難な状況が想定	・自動車の運転や家族の送迎に依存しなくても良い、利用者のニーズに即した公共交通網の構築が必要
	・本村地区に人口が集中している他、幹線道路から離れた位置にも人口が分布	・本村地区だけでなく、池田地区や曲川地区等に交通空白地域が存在 ・バス停までの移動が困難な方の移動支援の不足	
	・他地区では幹線道路周辺に人口が分布		
都市施設	・生活関連施設（買い物・医療・公共施設等）は本村地区に集積 ・大型観光施設であるキロロリゾートのほか、道の駅等の観光資源を有する	・村内各地区から本村地区まで移動手段が不足 ・村内観光施設を周遊できるような移動手段が不足	・村内移動だけでなく、近隣自治体の交通結節点との接続を考慮した公共交通網の構築
村内交通	・中央バス赤井川線が幹線道路を中心に平日・土曜8便運行 ・令和元年12月より、日曜・祝日の運行を村独自で継続 ・利用実態として通学・買い物・通院目的の利用が多い	・令和4年3月末に、平日・土曜の運行が取りやめ ・日中時間帯は運行空白時間帯が存在しており低利用 ・JRやバスとの接続状況が悪く、乗り換えの待ち時間が長い ・乗り換えなしで、小樽市へ向かう公共交通手段がない	・赤井川村に安心して住み続けられるための社会基盤としての公共交通網の構築
広域交通	・公共交通による他市町村への移動は、赤井川線の利用が必要不可欠 ・余市駅でJRやバスに乗り換える必要 ・余市町や小樽市が生活圏となっている		・他市町村への移動を円滑にする取組の実施や公共交通網の構築
村内交通資源	・(有)赤井川ハイヤー1社によって、通常のタクシー営業に加え、スクールバス運行委託事業等を実施	・タクシー営業と委託事業の両方を安定して継続していくための運転手の不足が懸念	・各種交通資源との連携を見据えた活用可能性の協議 ・公共交通及び送迎サービス事業で担うべき対象者や連携体制の整理
	・令和元年12月にキロロリゾートの従業員送迎バスの一般混乗の実証を実施 ・近隣で仁木町の「ニキバス」が運行	・本格的な運行や活用可能性の協議は未実施	
	・社会福祉協議会が送迎サービス事業を実施	・送迎サービス事業内容の見直し	

基本方針

村民と協働して創り上げ、カルデラの里を未来へ繋いでいく公共交通網の構築

方向性① 赤井川村に住み続けられるための重要なライフラインとしての公共交通網の構築

R3年度に内容を検討

方向性② 村民が主体的に公共交通に参画・協働できる機会の創出

R3年度に内容を検討

方向性③ 持続的な公共交通の確保・維持に向けた体制の強化

R3年度に内容を検討

■各種調査結果から見える公共交通の現状・ニーズと課題

	現状・ニーズ	課題
各種アンケート調査結果	【通学目的利用者】 ・通学時の移動手段は、バスもしくは家族の送迎に二分化 ・余市駅からJRもしくはバスに乗り換えて余市町や小樽市の高校へ通学 ・部活等の課外活動があった場合には、余市駅から自宅まで家族の送迎によって帰宅	・通学世代をはじめとした村内に居住する全世代の移動負担の軽減 ・公共交通を必要とする村民のニーズに即した公共交通の導入
	【生活目的利用者】 ・普段の移動手段はバス利用のほか、家族による送迎も多い ・普段の移動手段において、バスに頼らざるを得ない人が約3割 ・買い物や通院においては、村内のほか、余市町または小樽市を目的地とする割合も高い ・自宅まで迎えに来る新しい交通に対する利用意向は「利用してみたい」が約5割	・生活圏の一部となっている市町村への移動を支援する公共交通網の構築
	【中学生保護者】 ・高校へ通学は、村内からバス利用、もしくは、余市駅までの送迎による通学を想定 ・バス利用時に「登校時間に間に合うか」や「下校時間と合わない」ことを懸念	
意見交換会	・近隣自治体の下宿場所が減少しており、村からの通学需要への対応が必要 ・事故のリスクがあるため、免許返納を考えたいが、現状の整備状況では難しい ・バス停まで歩く必要がなくなるような、自宅もしくは自宅付近まで迎えに来る交通が望ましい ・余市町だけでなく、小樽市へも移動手段の確保が必要 ・新しい交通の運行に向けては、実証期間中だけでなく、本格運行が始まって、利用者等の意見を聴取し、改善しながら継続してほしい	・利便性の高い公共交通の維持・確保に向けた事業推進体制の強化